

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「価格が下がらないのは何故？」

政府が備蓄米を放出したのになぜ小売価格は下がらないのでしょうか？
内閣は下がるまで毎月放出することで価格が下がるとみていますが本当でしょうか？

この米価格高騰の原因は、米が足りなかったことであるのは誰でも分かることですが、なぜ農水省は「米はある」と言い続けたのでしょうか？

1. 米業界の非常識

米業界を見る場合に、それぞれ組織の存在理由を検討すると見えてくるものがあります
農水省は省庁統合で唯一無傷で生き延びてる省で、働く目的がなく天下り先です
全農と農協は存在目的が農家の為でなく組織を守ることです
米卸業界の存在は何が目的でしょうか・・・それは自分達だけが生き残ることです
そうすると、自民党の存在は権力を維持する為のお金ですかね
米業界のトライアングルとよく言われていますが、この4組織が自らの利益の為に数拾年のノウハウで、政治の力を利用して、自分達だけを擁護して生き延びてきたのです

今回の一連で感じたことは米業界にとって「平成の米パニックで大儲け」の再来でした
以前から米流通に携わる業界人が言っている「十年一度」大儲けの神風が吹いてきたぞ、
十年分の儲けを稼ぎだすぞ、との心情となるのです
この感覚はおそらく政府管掌の業界には多く存在していると思います

備蓄米放出のテレビインタビューで「あきたこまちの価格を備蓄米で価格を上げなくてできます」と答える米卸の言葉は、手に入れた儲けは離さないぞとの心意気を感じられます

米業界の問題点は戦後から許可制で、政府の言うことを聞いているフリで政府の方針に基づいて、金儲けで統一して口裏を合わせてきたのです
お客様は農水省であり、全農なので、決してスーパーでも外食でも、ましてや消費者でも無いのです
問題が起きたら平気でウソを言うことで長年の経験で、皆が同じことを言うことに慣れていたので、バイヤーを煙に巻いてきたのです
変化を嫌い、米屋をなくして、米卸も政府都合の良い業者だけにしてきた現在の結果なのです

2. 米価の上昇のイロイロな要因

一年に一度しか取れない商品が仕入れた時は安かったし、それから変わらない相対価格で入荷するけれど、途中で市況が著しく値上がりしました

全農からの価格はそんなに上がっていないのですが、途中で無くなるかもしれないと言われたので心配で仕入れたらとてつもない価格に上がってしまった場合、あなたは高く売っているのではないですか？

・・・それが今回の米価格の高騰なのです

当初の一番の要因は参議院選挙対策だったのです・・・農民票の獲得です
米価を上げる、は自民党から内閣への至上命令だったのです

こんな中で農水省の新しい政策に「餌米」があります

この制度は自給率アップする目的で中途半端なしくみでスタートしました

農水省はくず米（エサ米）の統計をしていないので、酷暑で稲の分ケツが起きにくくなり、くず米発生は二年間の数字を計算に入れられないのです

このように発生量が少かったのに主食用米だけの数量で米はあると言ったのです

農家の立場からすると、主食米価に遜色ない買い取り価格で誘導されており、数量優先で「くず米」でも良しとして、農水省は集荷業者に責任を押し付けて契約書で縛った結果が今回の騒動なのです

トランプ関税の大きな一項目に、日本への農産物の輸出拡大があります

米国の飼料用穀物の輸出量を、餌米で勝手に減らされたのでそれを戻すのです

トウモロコシではナンバーワンのアメリカだったのが、ライバルのブラジルに品質と価格で追い付かれてしまい、大統領が圧力をかけることになっているのです

またしても米国の外圧で、トウモロコシとお米の市場開放で決着するのでしょうか

また、生産者は高齢化が身近に迫ってきている中で、例えば農業資材・肥料の高騰がロシアと中国が相手先であることも危惧されることのひとつで新たな混乱のタネなのです

3. 茶番劇の備蓄米放出のやり方

まず、放出時期が農水省の判断ミスで遅れてしまったことが上げられます

今回の備蓄米放出の目的は集荷・米卸は、政府に下がったと思わせる価格に下げれば良いだけで、金額は決まっています・・・備蓄米の入札価格は関係ないのです

それは通常入札は開かれているはずですが、指定業者しか参加させない方式で、今回も90%以上を全農と経済連以外入札に参加させなかったのはなぜでしょうか

もう一つ入札は買う行為ですが、買った米を返す義務をつけたことで
価格変動を考慮すると、全農しかできないことを最初から裏付けにしたやり方だったので
す

歪な政府の発表を聞いて業界全体が右倣え、金儲けで統一されてきたのですから、今後の
することは全ての行動と発表がストーリー通り進行していくこととなります

これからは独占組織の全農にしか供給されなかったことで淘汰が進み、お米に競争が無く
なって同じ問題が発生し続けることとなります

今回の問題点は行政と全農の癒着以上の関係性から始まったことで、価格だけでもコント
ロールが効かない多様性の無さを露呈したのです

生産者からは作る自由・売る自由を奪い、言いなりになる米流通業者だけに絞り込み、量
販店向けには自由に選べると錯覚させて、消費者には絵空事で安心を発信しています

4. これからのお米対策

ここで心配なのは、備蓄米の放出を続けていくことで今年以降の作柄次第では備蓄米不足
が本格化するのではないのでしょうか

異常気象で世界の食料の不足の中で、先進国最低の37%の日本の自給率で米も足りなくな
ってしまわないかが心配です

民主党政権時代の野田総理時代に農業補助金の直接払いに切り替わったことがありまし
たが、先進国農業者には収入の半分が国から支払われることが常識の時代に期待したいです

その理由が、今回の米価の値上がり分は流通のものになってしまいます

農家は直接販売を試みてもふるさと納税の仕組みしかないのが現状です

それは全農が組織を守る為にと、全力で農業改革を潰してきましたが、潰されないように
期待したいものです

全農と農林水産省が構造改善をしてこなかったのは、農業補助金という縛りで隔離した別
の世界を作ることで、利権と政治に手を出せなくしたのです

外食の大手企業が集荷と精米の企業を買収して、食味と供給の安定を始まっています
真の米の流通に風穴を空けることができないかと期待しています

5. 温暖化時代の食糧

今回の米不足を食料危機の第一歩とすると、飼料用途の大麦・オーツ麦を食用として活用
することが対策になるはずですが、国内産大麦不足で輸入に切り替わってきています

米の世界を語るには物足りない内容でしょうが、これからの国民の食糧確保問題を追いかけていきたいと思っておりますので、これからもご支援をよろしくお願い申し上げます

前回のメルマガでは読者から返信をいただきましたので、質問がありましたら遠慮なくメールをいただけないでしょうか
(前回のメルマガ後編が送られていない場合があります。該当の方には深くお詫び申し上げます)

当社は 121 年の今年、米卸からオートミールなどの穀物加工業に転身いたしました
四工場の中の精米工場は売却の手続きを進めておりますので、情報をお寄せください